

1, 研究の経過と概要

(1) 東山梨地区 福祉教育研究部会の取り組み

本地区の福祉教育研究部会は、『学校教育における福祉教育のあり方』を研究主題に設定し、「福祉教育」をどのように扱い、子どもたちに何を学ばせるか、理論研究、福祉施設の見学、実践授業を通して研究を進めてきた。

福祉教育というと、障害者や高齢者について福祉講話で話をうかがう、調べたり体験したりする、交流するなどの実践が行われてきた。数年前より、教科や領域にとらわれず、「ともに生きる」ということを基調とし、授業実践してきた。

※ 過去の研究内容

2010 年度；各校の福祉教育の実践報告

研究授業 日下部小：聴覚障害について考えよう【総合】

松里小：お年寄りも幸せに暮らせる社会について考えよう

～自分たちにできることとは？～【道徳】

施設見学 山梨市 そだち園

2011 年度；各校の福祉教育の実践報告

研究授業 松里小：「お年寄りとよりよい交流をしよう」 6年【総合】

玉宮小：「思いやる心を伝えよう」 3年【道徳】

施設見学 山梨市・甲州市 ハロハロー番館・二番館

2012 年度；各校の福祉教育の実践報告

研究授業 松里小：「レッツ・トライ・ボランティア」 5年【総合】

後屋敷小：相手の気持ちを考えて 資料『こうえんのおにごっこ』2年【道徳】

学習会 「福祉教育にかかわる学習会」甲州市社会福祉協議会 手塚剛史さん

2013 年度；各校の福祉教育の実践報告

研究授業 三富小：みんないっしょに生きている 4年【総合】

日下部小：「本当のヒーローってなあに。」 1年【道徳】

学習会 「福祉に関わる学習会（点字）」山梨市社会福祉協議会 平山純子さん

2014 年度；各校の福祉教育の実践報告

研究授業 塩山北小：「ちょボラ」でみんなハッピーに！ 5年【総合】

神金小：「しょうかいゲームをしよう！」 1年【学活】

学習会 「ことばや発達に障害や特性をもつ子どもたちの豊かな人間性の育成をめざして」 講師 矢崎立美先生

2015 年度；各校の福祉教育の実践報告

研究授業 神金小：自分にできるボランティアを見つけよう 3年【総合】

学習会 施設見学 甲州市 救護施設「鈴宮寮」

(2) 今年度部会研究テーマ

「学校教育における福祉教育のあり方を探る」

(3) 今年度部会研究の経過（予定も含めて）

5月 6日（水）役員・研究テーマ・大まかな研究内容等の決定
5月 18日（水）実践事例をもとにした学習会
6月 1日（水）研究授業の授業づくり（大藤小：川野）
8月 1日（月）研究授業の授業案検討（大藤小：川野）
施設見学 富士見支援学校 8月 31日（金）統一授業研究会（大藤：川野）
9月 28日（水）福祉教育実践報告学習会（塩山南小：中村・三枝 笛川小：藤波）
11月 30日（水）福祉教育実践報告学習会（松里小：小河・後屋敷小：山宮）
1月 11日（水）福祉教育実践報告学習会（勝沼小：金井・日下部小：早川）
2月 8日（水）福祉教育実践報告学習会（神金小：廣瀬・三森 祝小：三森・高石）
2月 15日（水）成果と課題・来年度に向けて

(4) 研究の課題

今年度も、教科の枠や「福祉教育と言えば障害者や高齢者理解」という考え方にとらわれず、さまざまな立場の人々と「ともに生きる」思いやりあふれる子どもたちを育成することを基調として研究を進めている。これまでの研究会の中で確認されている課題は、以下の通りである。

- ①福祉講話や体験・交流などを単発で終わらせず、そこで学習した考え方や生き方を、日常生活でも生かしていけるような実践づくりを考えていきたい。
- ②「福祉」のとらえ方について、「ともに生きる」「みんなのしあわせ」のために支え合うという意識を子どもたちがもてるような実践づくりを考えていきたい。
- ③立場の違いはあっても、自他の幸せを願って努力したり夢を追ったりすることは同じである、という意識を子どもたちがもてるような実践づくりを考えていきたい。

これらの点をふまえ、研究部会に所属している部員のそれぞれの学校や個人の実践を参考に授業案づくりが行われ、共通理解のもとで意見交換がなされてきている。

(5) 研究同人

◇指導助言者	中村 達也（松里小学校）
◇部会員	藤波 貴（笛川小学校）
	三枝 直美 中村 咲（塩山南小学校） 小河真由美（松里小学校）
	廣瀬みどり 三森 明美（神金小学校） 川野 和昭（大藤小学校）
	高石 圭子 三森 敏彦（祝小学校） 金井 京子（勝沼小）
	山宮 由紀（後屋敷小） 早川 博江（日下部小学校）

2, 研究内容

(1) はじめに

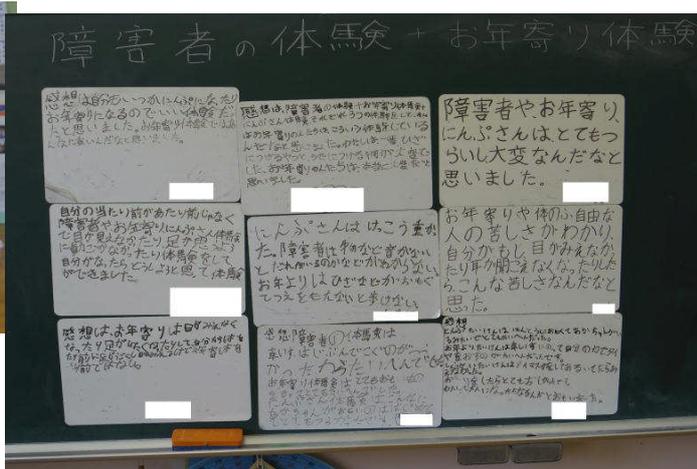
部会のテーマは「学校教育における福祉教育のありかたを探る」である。福祉とは、憲法25条の「生存権の保障」を基盤として、憲法13条の「幸福追求権」の実現をめざすものであり、「人を幸せにすること」や「よりよく生きる」ということである。山梨県の福祉教育実践事例集（平成7年）にも「共に生きる心を育む」という言葉が使われており、人間らしさの心を身につける教育であり、人間らしさの心とは、個人の価値をふまえた自立と共に生きる連帯の心であると定義している。この人間らしさの心の中の一つが「相手を思いやり親切にする心」と考えた。同心円の拡大の考え方でまず、友だちからはじめ、それを地域や社会全体に広げていくことで「相手を思いやり親切にする心」が育ち、「人を幸せにすること」や「よりよく生きる」につながると考えた。

子どもたちの発達段階に応じて学校教育の中でこのような自発的、主体的な実践力を育成することはとても大切なことである。では、具体的にどうすれば子どもたちに「相手を思いやり親切にする心」を育てたらと考えるなかで本研究では、道徳の時間を核として、「アイマスク体験」、「敬老日のお手紙」「運動会」などの全教育活動を通して「相手を思いやる親切な心」を育成することをめざして本研究を進めた。

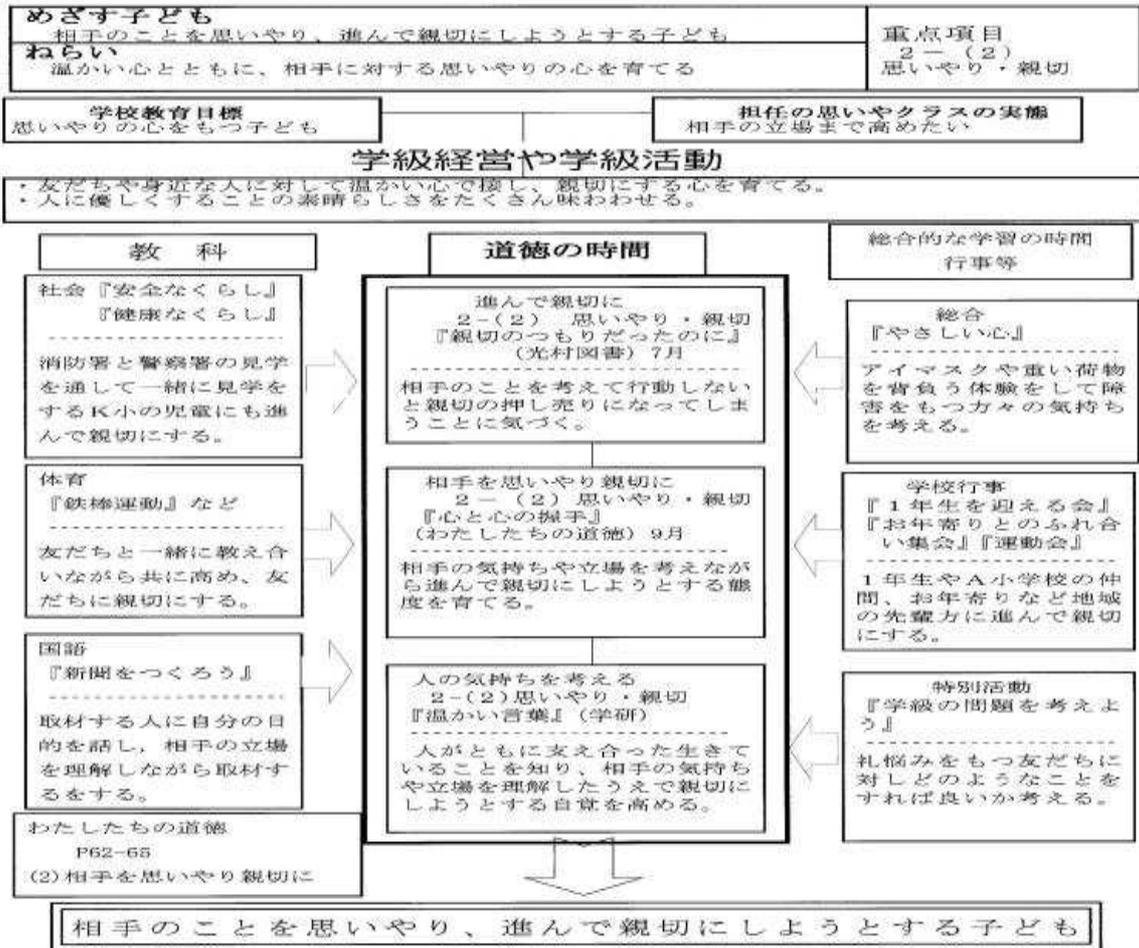
(2) 実践 I 他の教育活動との関連と洗い出し

4月に自分の学年の教育課程を確認し、学校行事や児童会活動などの全教育活動を洗い出し、「学習プラン」を作成した。自分が一年間「思いやり・親切」を意識して行うためである。

7月に行ったアイマスク体験では、実際に体験することでお年寄りや障害ももつ方々の大変さを知ることができた。お年寄りへの手紙では、実際に届け、感謝の気持ちを伝える活動をした。



A小第4学年 道徳学習プラン（思いやり・親切）



(3) 実践 II 実態把握

国研で出された「問題事象の未然防止に向けた生徒指導の取り組み方」平成22年度6月の資料の中から、自己有用感に関するものを全8問の中から取りだし、それに、普段の様子と道徳の授業についてを加えた事前アンケートを行った。Q-Uの分析も行い、子どもたちの実態の把握に努め、今後の助言の参考とした。

道徳のサポート	おうちの人がおなごうとしてくれている。	先生がわかるうとしてくれている。	友だちがわかるうとしてくれている。	専ら	進んで発表している	友だちの考えを聞くうとして	友だちの意見を取り入れようとしている。	自己有用感	友達に喜んでくれた	友達に感謝された	友達の役に立った	意欲	道徳の時間が楽しみ
	1.70	1.30	1.40		1.30	1.10	1.70		1.20	1.80	1.70		1.20

学校満足	学校が楽しい	みんなでもめあそびの楽しい	次の学年もこのクラスでいたい	授業が楽しくわかる	目標達成している	周囲のサポート	おうちの人が励ましてくれている	先生が励ましてくれている	友だちが励ましてくれている	周囲のサポート	先生が励ましてくれている	おうちの人から励ましてくれている	友だちが励ましてくれている
5月	1.94	1.92	1.89	1.46	1.43		1.73	1.94	1.69		1.94	1.12	1.20
数値は、クラスの平均値である。													
学校楽しいを例とすると1. そう思う～4. 思わないまでの4つから選択する。1が肯定的、4が否定的であり、2.5が平均となる。													

(4) 実践 III 道徳の授業

- 1 主題名 相手を思いやり親切に [内容項目2-(2)思いやり・親切]
- 2 資料名 心と心のあく手(出典 文部科学省 わたしたちの道徳 小学校3・4年)
- 3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

本主題は、内容項目2-(2)「相手のことを思いやり、進んで親切にする。」を受けたものである。これは、他の人と接する時の基本姿勢に関するものであり、相手に対する思いやりや親切な心を持ち、実践できる児童を育てようとする内容項目である。これが、高学年となると「誰に対しても」が加わる、4年生の2学期という発達段階もあるので、高学年の内容項目も意識して指導していきたい。また、道徳マニュアルを参考にして教材研究をした。

この時期の児童は、相手の気持ちをより深く理解できるようになるため、温かい心とともに、相手に対する思いやりの心を育てることが重要になる。相手の現在の状況、困っていること、大変な思いをしていることなどを想像することによって相手のことを考え、親切な行為を自ら進んで行うことができるように指導していくことが大切である。

そこで、相手の立場を理解し、相手が困っていることを自分のこととして受け止められるような心情と必要な援助を差し伸べようとする態度を養いたいと考える。

(2) 児童の実態について

本学級の児童は、授業中のペア学習などで男女の隔てなく交流できる子が多い。その反面、相手の状況に応じて対応することは苦手である。この機会に温かい心を育み、相手への真の親切や相手にとって心からの喜びとはどんなものなのかを考えさせたい。また、相手の喜びが、自分の喜びにもなることに気付くことができるようにさせたい。

事前アンケートの結果を見ると数値は、良好で肯定的である。その中で、自己肯定感に関する項目の

- 「私のしたことをで他の人たちによるこんでもらえた」 1, 80
- 「私のしたことをで他の人から感謝された」 1, 70

が他と比べると若干数値が高い。

資料の内容に関連する道徳の時間は、7月に、「進んで親切に」2-(2)思いやり・親切、資料名「親切のつもりだったのに」で、三千代さんの立場を考えずに、気づかずに親切の押し売りをしてしまった「わたし」の気持ちを通して、親切にすることの大切さについて考えを深めた。それに総合のアイマスク等の体験を絡めて、子どもたちにとっては、親切だと思った行為が、相手にとっては、そうでないという点について考えを深め、相手の立場に立ってどうということが望ましいか考えさせたい。相手の気持ちを推し量ることは大変難しいことだが、思いやり・親切を考える上では、とても意義のあるものだと考える。

(3) 資料の活用について

本資料は、4つの場面で構成されている。

- 1 おばあさんが転びそうになり、助けようと声をかけるが、「家まですぐだからいいです」と断られる。
- 2 家で母からそのおばあさんについての話を聞き、おばあさんの本当の気持ちがわかったような気になる。
- 3 数日後、おばあさんが額に汗をかいて一生懸命歩いていく姿を目にするが、見守ることを選択する。
- 4 心配して玄関で待っているむすめさんの言葉を聞いて、にっこりうれしそうな顔をするおばあさん。ぼくはほっとして胸をなでおろす。そしておばあさんと「心と心のあくしゅ」をしたような気になる。

まず、自分たちで疑問に思ったことや気になることを出させる。そして、4つの場面の中の3では、声をかけようかと迷っている「ぼく」の気持ちを主発問として考えさせたい。4では本当に、その人が困って求めているのは何なのかを見極めることの大切さを学ばせ、一方的なおせっかいな親切もあることを知って、本当の思いやりについて考えさせていく。相手の身になって考え、温かい心で接することが大切であることをしっかりつかませていきたい。そして、最後に、自分に出来ることを考えさせたい。

4 本時のねらい

相手のことを思いやり、進んで親切にしようとする態度を養う。

5 学習指導過程

段階	学習活動（主な発問）	予想される児童の反応	指導上の留意点☆評価の観点
導入 3分	1, 「おせっかい」という言葉について理解する。 「おせっかい」という言葉を知っていま	・お願いしてないのに勝手にすること ・わからない	・辞書を用意して引かせる ・前に学習した「親切のつもりだったのに」と

	すか。		関連をはかる。
展開	2 資料の要点を知る。		<ul style="list-style-type: none"> ・主人公，条件，状況を簡単におさえる。
5分	3 資料「心と心のあく手」の範読を聞く。		<ul style="list-style-type: none"> ・聞く観点を指示し，主人公の立場で考えられるようにする。
2分	4 心に残ったところや話し合いたいことを発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・心配して声かけした時 ・おばあさんの事を聞いた時 ・数日後，また出会ったところ ・本当の親切って何だろう 	<ul style="list-style-type: none"> ☆本時の話題を自分たちの課題として受け止めることができたか。
5分	5 主人公「ぼく」を中心に話し合いをする。 (1) 自分だったらおばあさんへ声をかけますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・赤 助けて声をかける ・青 声をかけない 	<ul style="list-style-type: none"> ・親切心からおばあさんに声をかけたのに，断られたぼくの気持ちを捉えさせるために心のカードを利用して自分の気持ちを表示させる。
5分	(2) 心配をしておばあさんに声をかけたのに，「家まですぐだからいいですよ。」といわれた僕の気持ちを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・せっかく助けてあげようとしたのに，断られて残念だ。 ・ぼくの気持ちもわかってほしい。 ・せっかく声をかけたのに少し恥ずかしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆「ぼく」の気持ちに共感することができたか。 ・ぼくの気持ちを教師が大きな心のカードで表す。
3分	(3) 母からおばあさんのことを聞いたときの「ぼく」の気持ちを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・そうだったのか。それでおばあさんはがんばっていたんだ。 ・おばあさんは歩く練習をしているんだ。 ・お母さんにいいことをしたと言われて良かった。うれしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・おばあさんの現在の状況を知り，「ぼく」の気持ちの変化を大きな心のカードでとらえさせたい。
	(4) 数日後，おばあさんに出会い，後ろをついていく「ぼく」の気持ちについて考える。		<ul style="list-style-type: none"> ☆親切にするよさに気づくことができたか。 ・道徳ノートに自分の考えを書かせた後，「ふじっこタイムで」少人数で意見交換し，自分の

7分	<p>「どうしてぼくは、声をかけず、おばあさんを見守ったのだろうか」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・怒られるから ・見守ることが大切 ・なんでもお手伝いをするのがいいことではない。 ・親切ってむずかしいけれど見守ることの方がおばあさんにとっていいと思ったから 	<p>思いを語ったり、友達の考えを聞いたりして深めさせたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の立場を十分に認めた上で、自分たちのできることは何かをしっかりとおさえながら考えさせたい。 ☆相手の気持ちを考えて親切にすることについてノートに書くことができたか。 ・お互いの気持ちが一つになったときに心と心が握手したように感じることをおさえさせたい。
3分	<p>(5) 長い坂道を上り切ったおばあさんの様子を見た「ぼく」の気持ちを考える。 「心と心のあくしゅとは、何だろう」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・おばあさんの本当の喜びは何かを考え、応援することができた。 ・おばあさんの気持ちとぼくの親切の気持ちが一つになった。 ・二人とも心から笑顔で同じ気持ちになったこと。 	
8分	<p>6 本当の親切について考え、発表する。 本当の親切とは、どのような事だと思いますか。</p>		<p>☆今までに行った「思いやりの心」について、自分自身を見つめさせるながら本当の親切について書くことができたか。</p>
終末 2分	<p>7 おせっかいと思いやりの違いの話をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の立場を押し量り、自分の思いを相手に向けることが大切なんです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらいとする価値への印象づけを図り、実践への意欲を持たせる。 ・誠意をもって思いやることは、どのような場においても大切である

		ことを意識させ、新たな実践への意欲づけとする。
--	--	-------------------------

6 評価の観点

- ・ぼくの気持ちになって話し合ったり、ワークシートに自分の思いを書いたりすることができたか。
- ・相手のことを思いやり、相手の立場に立ってを考えて親切にする態度を養うことができたか。

7 板書計画

7 板書計画

第十五回 道徳

心と心の握手

絵 3

相手の立場を考える

- ・相手の立場を考える

絵 2

おばあさんは嬉しかったのよ

- ・めいわくだから
- ・見守ることが大切
- ・おばあさんは嬉しかった。

絵 1

断られた

- ・いやな人
- ・二度と声をかけない
- ・つらそうだから
- ・役に立ちたい
- ・よいことをしたい
- ・あたりまえ

ぼく

疑問に思ったこと1

疑問に思ったこと2

疑問に思ったこと3

助けようとした

「心と心のあくしゅ」道徳ノート

8/31

なまえ ()

○どうしてぼくは、おばあさんに声をかけず見守ったのでしょうか。

また声をかけたらことわられてしまうかもしれない。おばあさんも自分のために少しづつ早く歩けるようにかんはって家まで歩いていたらもし何があるかもしれないからあとから目守りつづけた。

○本当の親切とはどのようなものでしょうか。

親切にしてみたらとかんはって親切にした人も二人がえ蓑貝になってしてよめたなとて思える事と目守っておばあさんも目的にあがてはまっているからおうえんしてあげる。

○自分の考えをもてましたか。

もてた すこしもてた あまりもてなかった もてなかった

「心と心のあくしゅ」道徳ノート

8/31

なまえ ()

○どうしてぼくは、おばあさんに声をかけず見守ったのでしょうか。

たくさん歩く練習をして早く歩けるようになってほしいから。また声をかけたらことわられてしまうかもしれないけどころんどりしたらたすけてあげようと思ったから。

○本当の親切とはどのようなものでしょうか。

心の中でおうえんしながらずっと見守ってあげる。

○自分の考えをもてましたか。

もてた すこしもてた あまりもてなかった もてなかった

5 授業後の研究会から

授業者より

- ・おせっかいという言葉を意識させた。
- ・自由に話し合いの時間もとって見たがどうだったのだろうか。
- ・板書は、色を使って意識させた。

参観者より

(導入)

- ・辞書を引くことになれていた。

(展開)

- ・はじめに自分たちが疑問に思ったことを出させたが、的確な意見が多かった。
- ・児童が意見をたくさん出していた。
- ・児童同士の教えあいの時間を取ることも大切である。
- ・相手の立場を考えて出てこないと思ったが児童はよく理解していた。
- ・全員が書けることはすばらしいかった。
- ・「どうして見守るのだろうか」は、相手の立場までは、難しかった子どももいた。
- ・見守るが「心配だから」「断られる」と2つあった。

3, 成果と課題

成果

(1) 児童の様子から

(授業のノートの記述から)

どうしてぼくは、見守ったのか

- ・また、断られるかと思った 2
- ・おばあさんが足が不自由で一生懸命のぼっていたから 3
- ・おばあさんが足が不自由で一生懸命のぼっていたが本当に大丈夫かわからなかったから 5

本当の親切とは

- ・声をかけて荷物とかをもつて家まで持っていくこと
- ・心の中で応援すること 2
- ・見守ってあげること 5
- ・見守ることも大事、おばあさんが笑顔になればいい 2

最初の発問に対しては、また、断られると思った、お母さんの話を聞いて足が不自由だけど練習のために登っていたという文章にあることを書いた児童が半数、それに加えて何かあったらすぐに駆けつけたいという事まで加えた児童が半数であった。道徳の課題として文章からぼくの心の奥まで考えることが難しいことが上げられる。

次の「親切とは」では、一人を除いて、相手のことを思いやり、相手の立場に立ってを考えて親切にする態度というを養うというめあては達成できたように思われる。

見守っている事も大事だしこえをか
けるのも大事だけどおはあさんがえ
がおになれることがしんせつなと思
う

(2) アンケートから

その中で自己肯定感に関する項目は、

「私のしたことをで他の人たちによるこんでもらえた」 1, 80が1, 40

「私のしたことをで他の人から感謝された」 1, 60が1, 10

「私のしたことをで他の人たちの役に立った」 1, 70が1, 60

と、少し変化が見られた。もともと数値がとても良く、人数も少ないので参考にできないもあるが、いろいろな活動を仕組んだことが児童に影響を与えてるかもしれない。

(3) 児童の様子から

その後の児童の様子では、運動会の組み立て体操でパートナーへの思いやりや友だちのお手伝いや、下級生の荷物を持ってあげた、敬老の日でおじいちゃんにやさしくしたなどの様子や記述（日記等）が見られた。児童に思いやりの心が育っていることが伺える。

人の気持ちが分かり合えるようになって、みんな仲良くできるようになった。組み立て体操で下の土台の人のつらさも自分で分かるようになってきた。人がちいなくても自分から進んでやれるような心が持てた。みんなで遊んでいた時昔は、ホールを少ししかかたすけていたけれど今はたくさんホールをかたすけてあげられるようになった。

課題

実践をしてみて、どのように子どもたちに「相手を思いやり親切にする心」が育ったのかを検証することはとても難しい。今研究でも3つの観点から考察してみたが、有効な検証方法の確立が課題である。